

通産省デザイン課とインダストリアルデザイン（研究ノート）

MITI Industrial Design Section and its Concept（Research Note）

●黒田宏治／静岡文化芸術大学、青木史郎／中国美術学院

KURODA Kohji / Shizuoka University of Art and Culture, AOKI Shiro / China Academy of Art

● keywords: design promotion, design administration, design history, MITI, industrial design

1. はじめに

1958年5月、通産省は通商局にデザイン課を設置した。デザイン盗用の政治問題化がデザイン課設置の直接の契機と伝えられるが、筆者らはその主たるねらいはインダストリアルデザインのわが国産業への導入にあったのではないかと考えている（*1）。ちなみに検討段階の名称案は産業デザイン課であり、英文名称はIndustrial Design Sectionであった。本稿は、そこでインダストリアルデザインはどのように捉えられていたか、捉えようとしていたかを、当時の関連の記録・記述を辿るなか検討した断片である。尚、引用については一部省略・改変、要約した。現代表記に改めた部分がある。

2. 1950年代草々のインダストリアルデザイン

インダストリアルデザインの言葉が米国より日本に紹介された1950年頃、日本側ではどう理解しようとしていたか、小池新二（千葉大学）、服部茂夫（工芸指導所）の言説を通じて概況整理する（1-5）。インダストリアルデザインの勃興は産業革命に比すものと捉えられ、従来の意匠・図案との対比で格段の拡がり期待をもって語られた。オーガニゼーション、民主化などが重要なキーワードであったと思われる。

1. もう所謂工芸の時代ではないのだ。われわれの生活はとうにインダストリアル・エイジに入っているからである。全く新しいデザイン運動の勃興なのである。それは正に世紀の大事件であり、第二次の産業革命を意味する。（小池 1949）

2. industrial design とは、下記三点における製品の内面的効率を反映する外部的な organization であるという事ができる。すなわち manufacture、performance、use がそれである（manufacture は生産費の低下を含意）。（小池 1950）

3. Teague の言葉に「オーガニゼーション（組立構成）」という語はデザインの意味を最も近く表現している」というのがあるが、インダストリアルデザインとは製品の生産企画から始まって、製品の設計に必要なあらゆる条件の収集検討、そしてそれらの総合的な組立から創作設計、生産指導等の動作の総てを言い現している。対象製品の基盤は科学や技術による多量生産にあり、対象範囲は非常に広く、その種類は無限と言ってもよく常に進歩している。（服部 1950）

4. アメリカ式のデザインは民主化のデザインです。向こうはエンジョイ・ライフをモットーにしている。（服部 1951）

5. 商品进行設計するために消費者の心理を研究することは、今や全米のインダストリアルデザイナー間で最も緊急な仕事となっている。（服部 1952）

3. 職能としてのインダストリアルデザイン

1952年10月、日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）が発足した。そこで職能の概念としてインダストリアルデザインが整理されている（6）。小辞典の解説が理解しやすいが（7）、隣接分野との区別に重きが置かれている。前述の革新性・拡張性は薄れ、識者の間では違和感もあったようである（8, 9）。デザイナーの立場からの概念整理であり、企業経営や産業政策のスタンスとは異なるように思える。

6. インダストリアルデザイナーは、よい製品を生みだすために形の上の問題は勿論のこと、その製品の企画から消費者の手に渡るまでのすべての面にタッチしなければならない、また材料、機能、工作技術、消費者の購買心理への適合、使い勝手などを総合して立派な製品を作り上げる技術者である。（JIDA 設立趣旨より、1952）

7. 工業生産のためのデザインを手工業的な生産品、あるいは工芸美術のデザインを区別して呼ぶ場合につかわれる。機械器具、プラスチック製品等のデザインを重視されていなかった製品または新興材料で製造技術、用途の未知な新開拓すべき製品工業についてのデザインを特に狭義に解釈してインダストリアルデザインと呼ぶ。（デザイン小辞典、1955）

8. 私はインダストリアルデザインという言葉を広義に解釈して、従来日本で最も意匠家の活躍している染織に関係ある繊維製品の意匠や商業美術という取扱いをされている宣伝、印刷意匠はこの中に含まれてよいと思う。（豊口 1953）

9. アメリカで生まれた名称であり、その中には産業が製品を作るのに必要な工業デザインと、それを売るのに必要な商業デザインをふくんでいる。ヨーロッパの造形芸術家などの中には産業臭をきらって、工業デザインのかわりにプロダクトデザインといっている人々も少なくない。（勝見 1955）

4. 企業経営とインダストリアルデザイン

レイモンド・ローウィの来日と松下幸之助の逸話がインダストリアルデザインと日本企業を結ぶ端緒となった（10）。1956年の米国デザイン視察団報告からは、米国企業におけるインダストリアルデザインというシステムとも言える先進

性への評価が読み取れる（11）。

10. 1951年4月にレイモンド・ローウィ来日、18日藤山愛一郎主催の講演会が開かれた。政治家、官僚、実業界（倉田日立製作所社長、石田トヨタ自動車社長ら）が集まり、ローウィは「デザインは商品の販売を左右する。米国の生産会社で産業意匠家を採用していないところはない」と語った。翌52年、ローウィがデザインした「ピース」が発売され、150万円のデザイン料と売上急増に関心を集めた。

11. 日本生産性本部・工業デザイン専門視察団報告（1956）

a. インダストリアルデザインは、経営上にも重要な位置を占め、工業界に欠くべからざる職能としてすばらしい発展を遂げている。Engineer, Salesman, Designer

b. 各視察先を回ったときにまず説明せられることは、その会社のデザインについての考え方の基本とその会社のデザインの統一についてである（デザインポリシー）。

c. （例えばGE社では）インダストリアルデザイン部門の部長は製造部長、技術部長、製品計画部長などと同格で完全独立部門である。

d. 広範かつ精密な市場調査（マーケットリサーチ）が行われ、消費者の動向を十分つかんで製品の方針が出されるから、インダストリアルデザインも創造が容易になっている。

5. 初代デザイン課長新井真一の発言を追う

新井真一は、新設のデザイン課長に就任し、翌年8月まで務めた。眼前の課題はデザイン盗用（消極）と商品高級化（積極）の両輪と理解しつつ、それらの根本となる理念の構築を模索した。記述からはデザインの経営認識、技術・販売とデザインのコラボレート、大企業問題と中小企業問題の架橋などの政策意思が窺える（12-18）。

12. デザイン問題は海外のデザイン盗用という消極問題と輸出商品の高級化という積極問題です。このような現象だけを追う問題意識では根本的な解決にならない。（新井 1958a）

13. 'デザインすること' は決してデザイナーのエラボレートな仕事ではなく、生産、企業経営の各分野とのコラボレートでなければなりません。それは特にセールスとエンジニアリングとは不可分な協働でなければならない。（新井 1958a）

14. 第一にデザイン行政の理念の確立である。世界恐慌は産業革命以来の商品に大きな形態上の変革をもたらした。デザインの認識の点ではわが国は明らかに遅れている。第二はデザイン問題をデザイン専門家間の問題から産業のトップ・マネージメントの問題へと送り込むことである。（新井 1958b）

15. 世界の商品経済は、近代概念のデザインが重大な武器となって戦われ、その発展の契機となっている。欧米先進諸国の企業がデザインのために、どれだけ多くの金と時間と人々を投入しているかは、蓋し想像以上である。（新井 1959）

17. ハンディクラフトとプロダクトデザインとの問題区分、業態上は前者は中小企業のデザイン問題、後者は大企業のそれである。デザインという本質問題では共通であるが、行政

面では各論に分けてかかる必要がある。（新井 1959）

18. まず第一点は何なんといってもいまの産業というものとは資本主義社会の中にあり、やはり利潤追求が企業のもっとも基本的な使命です。この点はデザインの方にも頭に置いてもらわないといけない。（新井 1966、JIDC1st 分科会の冒頭で）

6. デザイン奨励審議会答申を読む

上述の議論・経緯も入れて審議会での審議等を経て答申がまとめられた。58年答申では（19-23）、審議の経過からと推察するが、デザインの造形論とシステム論の併記であり、英国産業意匠協議会（COID）の紹介を通して通産側の後者への軸足が透ける。61年答申では（24, 25）、なお企業のデザイン理解が課題であり、新たにデザインポリシー、デザイン管理（デザインマネジメントと推察）が提起されている。

このあたりが、明記はないが、職能側の概念と異なる、米国より移入された概念を発展させた通産省のシステムとしてのインダストリアルデザインではないかと考える。経営トップに近いデザインの位置、デザインポリシー（企業としての統一指針）、技術・販売・デザインの連携、プロセスの一貫性、広範囲の対象分野など、それらを兼ね備えたシステムとしてのインダストリアルデザインという概念であろう。

19. 輸出デザイン貧困の根本的な原因は我が国産業のデザイン意識の安易さという、産業自体の姿勢の問題に根ざしており、輸出は単なるその現象に過ぎない。（答申 1958、23 まで）

20. デザインは西欧における近代概念は商品の総合的な性質として機能美と形態との融合美を意味し、それは生活の実用に即した必然性のある形態であって……

21. 企業内のデザイン部門はトップマネージに直結し、セールスとエンジニアリングとデザインは密接に協働され運営されて居り、デザインの決定は企業の最高責任にされている。

22. COID の設立にあたった人達は、米国内で起こりつつあった産業革命にも似た変革、すなわちインダストリアルデザインの勃興を重視し……

23. COID ではデザイナーの登録を行っている。生産機器のデザイナーから陶磁器、ガラス、テキスタイル、家具、ポスター、服飾、展示などあらゆる分野を網羅している。

24. 日本の産業界の実情は、デザイン問題がデザイン専門家のみの問題でなく、企業体内部のデザイン管理の問題であるという理解に欠けているようである。（答申 1961、25 まで）

25. 企業経営者は、自社商品のデザインを自己のトレード・マークとして通用せしめるまでに強力なデザインポリシーと、それを裏づける企業内部のデザイン管理の充実に努めなければならない。

注・参考文献

* 1 青木・黒田他、デザイン行政開始の経緯とその政策理念、2021年、芸術工学会誌投稿中
誌面の制約で引用・参考資料の掲載は割愛させていただく（ご容赦）。